

第八十五回フォト句優秀作品（30年6月12日）



カゲロウも極楽浄土をこいねがう（健夫）



猛夏なり富士泰然と
シヤボン吹く(晃二)



梅雨寒に追い打ちかける涙雨(三春)



まっしぐら大根役者の旅鳥（隆）

寸評：

1) 安曇野は水湧くところ夏兆す 中村 晃也

北アルプスの山麓盆地の安曇野のわさび大王園での写真。

清流に回る水車が印象的だ。

2) カゲロウも極楽浄土をこい願う 下山 健夫

美しい蓮の花の中心をよく見ると細身のカゲロウが止まってい
て、花卉にカゲロウの影が映っている。影が薄いので寿命もそう
長くないことを自覚し極楽往生を願っているのかもしれない。

3) 猛夏なり富士泰然とシャボン吹く

安藤 晃二

夏の晴天の富士山。画面に車の窓かカメラのレンズの水滴が映っている。通常ならこの画像は失敗作としてボツにするのだが、作者は泰然としてシャボン玉と強引に解釈して提出した。

句は猛夏とかシャボン吹くとか無理な言い回しが気になるが、発想の良さを評価し入選と決まった。敢えて句を修正するなら

「暑の極み富士をしり目にシャボン玉」。

4) 梅雨寒に追い打ちかける涙雨

三 春

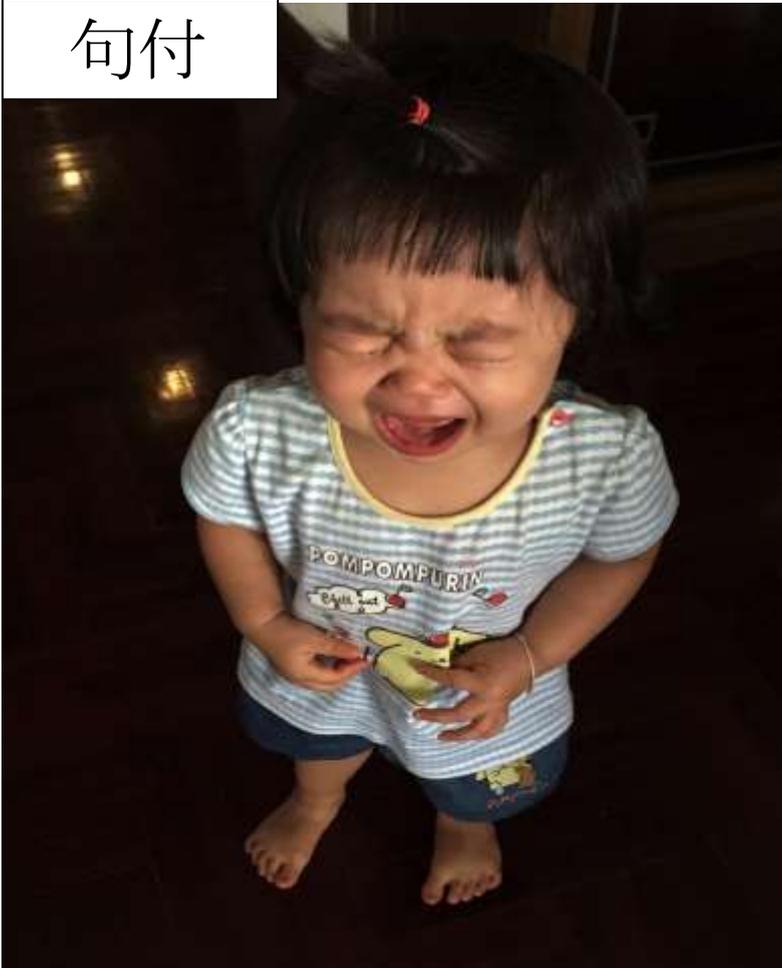
雨の庭を恨めしそうな顔で眺めている人物。秋のように紅葉しているが梅雨寒の感じは出ている。句は梅雨と涙雨と付き過ぎの感があり、涙雨の措辞も演歌っぽい。写真もパンチに乏しく作者も自覚しているようにお情けの入選だ。

5) まっしぐら大根役者の旅鳥

池田 隆

わき目もふらずひた向きな旅鳥の画像はなんとなくペーススを感じさせるが、なんともコメントのしようがない。B面の作品が入選したとは作者の弁。

句付



今月のお題写真は三春さんの提供。大口を開けて泣きわめいてる女の子の写真です。よく見ると涙は出ていないので嘘泣きであることは歴然。

寸評：

1) 双葉より女の武器を使いおり

池田 隆

泣けばなんとかなると思う女の性。何時の世も変わらず。

2) うそ泣きも女の知恵と知り初めし 三 春

男性にはわからないこの心境。

3) 来ておくれ泣く子も黙るアンパンマン 長尾 新一郎

ついに出了たアンパンマン。女の子にも大人気とか。

4) 虐待の報を聞くたび顔曇り 下村 健夫

虐待されて泣いているのではないが、幼児虐待の報が多く、
時宜を得たつけ句だ。

5) 泣きねだり爺の攻略これ一番 清水 勝

とにかく泣き喚めれば、か弱い爺はオロオロとしていうこと
をきく。まさに知能犯だ。

6) お漏らしを他人にはいえず泣くばかり 中村 晃也

こんな時代もあったっけ。